デーリー東北
発行所
デーリー東北新聞社
〒031-8501
八戸市城下一丁目3-1
電話0178(44)5111
振替口座02360-6-4212
©デーリー東北新聞社2003

内科・小児科
多賀台診療所
八戸市多賀台四丁目四一三
（多賀台小学校裏）☎五二一三三七五

◇旧暦
12月25日・赤口

# 木村氏3選

## 青森県知事選

## 横山氏善戦8万4000票差

### 平野氏、保守対決に埋没

任期満了に伴う第十五回青森県知事選挙は二十六日、投票が行われ、即日開票の結果、現職の木村守男氏（六五）＝自民、公明、保守新推薦＝が三十一万三千三百十二票を獲得、新人で大学教授の横山北斗氏（三九）＝民主、自由、無所属の会推薦＝の追撃を約八万四千票差で振り切り、三選を果たした。新人で元浪岡町長の平野良一氏（七四）＝共産、社民推薦＝は八年ぶりの保守対決に埋没。新人で建築家の石舘恒治氏（五八）は票が伸びなかった。

木村守男氏の３選が決まり、青森市の選挙事務所では関係者が笑顔で万歳した。左から津島雄二自民党県連会長、木村氏、せつえ夫人＝26日午後10時８分ごろ

結果的に有権者は損得勘定を選択した。しかし、横山氏が青森、八戸両都市部を中心に二十三万票近くを得票。現職八年の実績を強調する県政への強い批判を浮き彫りにした。木村氏は三期目の県政運営に当たり、県民から厳しい注文を突きつけられた形となった。

低調だった有権者の関心は終盤にかけて幾分上向いたものの、最終的な投票率は過去最低だった前回を2・29ポイント上回ったにとどまった。

二十一世紀最初の知事選は、先行する木村氏を横山、平野両氏が追う事実上の三どもえ戦となった。新人はいずれも現県政の在り方と木村氏の政治姿勢を厳しく批判、二十三万票近くを得票。現職の木村守男氏（六五）＝自民、公明、保守新推薦＝が三十一万三千三百十二票を獲得、新人で大学教授の横山北斗氏（三九）＝民主、自由、無所属の会推薦＝の追撃を約八万四千票差で振り切り、三選を果たした。新人で元浪岡町長の平野良一氏（七四）＝共産、社民推薦＝は八年ぶりの保守対決に埋没。新人で建築家の石舘恒治氏（五八）は票が伸びなかった。

【2、18、19ページに関連記事】

◆青森県知事選開票結果（選管最終）

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 当 | 313,312 | 木村 | 守男 | 65 | 無現 |
| | 229,218 | 横山 | 北斗 | 39 | 無新 |
| | 34,970 | 平野 | 良一 | 74 | 無新 |
| | 7,184 | 石舘 | 恒治 | 58 | 無新 |

▷有権者数　1,189,662人　▷投票総数　591,076票
▷有効投票　584,684票　▷投票率　49.68%

## 下田町長に袴田氏4選

### 下川原、馬場氏をかわす

任期満了に伴う下田町長選は二十六日投票が行われ、即日開票の結果、現職の袴田健義氏（六）＝無所属＝が、前町議の下川原千秋氏（六）、元会社員の馬場正治氏（五一）の両新人を下し、四選を果たした。投票率は68・96%で、前々回一九九九年（前回は無投票）を6・08ポイント上回る過去二番目の低さだった。

【3ページに袴田氏の横顔】

選挙戦は、袴田町政三期十二年の継続か刷新かが最大の争点となった。袴田氏は、町職十四人中十人の圧倒的支持を取り付け、町内全域に浸透。三村申吾衆院議員や陸援自治体の首長らからも支援を得るなど、実績、知名度とも勝る現職の強みを存分に発揮した。

当選確実が伝えられた午後十一時すぎ、選挙事務所では、前の晩に開いた約二百人の支持者の拍手の中、袴田氏が「皆さんの一票一票に支えられた。合併問題を最優先とし、与えられた任務に心新たに取り組み、町民の期待に応えたい」と四期目に向けた決意を語った。

九五年に続く再挑戦だった下川原氏は、若さと行動力をアピール、町政刷新を訴えたが、袴田氏と一騎打ちを演じた九五年の得票率と比べても上積みは伸びなかった。

同じく新人の馬場氏も二人の支持町議・有志で組織された「支援する会」と一体で草の根選挙を徹底したが、知名度不足もあり得票は伸びなかった。新人二氏はともに現職票も分散された。

投票率は八年の67・71%に次ぐ過去二番目の低さ。前回は無投票、三人以上の立候補は六〇（昭和三十五）年以来だったが、世代交代の是非に争点が偏り、政策面での明確な争点が存在しなかったことなどから、北部地区を中心とした低調ムードは覆えなかった。

４選を果たし三村輝文県議らと万歳する袴田健義氏（左）

**開票結果**　選管最終

当　三、二六六　袴田　健義78　無現
二、一〇八　下川原千秋35　無新
一、七〇七　馬場　正治51　無新
▽有権者数　一、〇四〇人　▽投票総数　七、一二一票
▽有効投票　七、〇八一票　▽投票率　68・96%

## 聖火リレー　大会成功願う

### 新山さんら ランナー37人　熱き思いつなぐ

第5回青森冬季アジア大会の聖火リレーは二十六日、八戸市内で行われた。タレントの新山千春さん（三）＝青森市出身＝ら37人のランナーが、大会成功を願う県民の思いがこめられた「アジアの火」を5区間にわたってつないだ。

【11ページに関連記事】

雲一つない青空の下、市体育館前で行われた出発式では、中村秀文市長が「大会を成功させるためにも、県民の思いをつないでほしい」と激励。第5区のランナー一人が決意を宣言、中村市長が大会の聖火リレーは二十六日、八戸市内でトップを切り、八戸市新山千春さん（三）＝青森市出身＝ら37人のランナーが、大会成功を願う県民の思いがこめられた「アジアの火」を5区間にわたって連ぬ、燃え盛る聖火をつないだ。

聖火は桜木町、吉田産業本社ビル、泰華堂前、別館前広場に到着。聖火が「大会を成功させる」と力強く納火された。大会組織委員会事務総長の山口征一郎知事が「熱い思いで大会を成功させ、アジア十八ー三十一日に大勝の平和と友情が引き継がれるよう期待する」と大会への決意を述べた。

聖火リレーは二十七日は三沢市で行われる。二日、青森市では横山氏に対し、十二万票を減らした。得票率は前回の71%から53%に落ち込んだ。

田名部氏省エネ議員率指した。前面に出し、都市部を中心に支持を広げ、後半猛追を受けた横山氏は、出馬表明が告示の二週間前と遅れた。知名度不足もあり追い上げをみせたが及ばなかった。

平野氏は最終盤に加勢した。

聖火がともったトーチを掲げる新山千春さんを先頭に、スタートする第1区のランナー。「アジアの火」には大会成功を願う県民、八戸市民の思いが込められている＝長根公園スポーツ研修センター前

## 木村氏会見

### 使命感持ち全力で

### 雇用対策など取り組む

三選を果たした木村守男氏は、青森市の選挙事務所で報道各社のインタビューに答えた。一問一答は次の通り。

―県民に何が受け入れられたと思うか。

「県政だけでなく、『反終然』を掲げて、『保守対決』と訴え続けた。『保守対決』の根源を徹底したものの、終盤は、サイクル事業の既成事実化と七十四歳の高齢もあり、支持を伸ばせなかった。

『有権者は独自の厳しい審判』とだが広がりはなかった。

―県政への強い批判を浮き彫りにした。

「県民は、『保守対決』では青森県は沈没する」と訴え続けた。『保守対決』の根源を徹底したものの、終盤は、サイクル事業の既成事実化と七十四歳の高齢もあり、支持を伸ばせなかった。

『有権者は独自の厳しい審判』とだが広がりはなかった。

―県政への強い批判を浮き彫りにした。木村氏は三期目の県政運営に当たり、県民から厳しい注文を突きつけられた形となった。

「低調だった有権者の関心は終盤にかけて幾分上向いたものの、最終的な投票率は過去最低だった前回を2・29ポイント上回ったにとどまった。

二十一世紀最初の知事選は、先行する木村氏を横山、平野両氏が追う事実上の三どもえ戦となった。新人はいずれも現県政の在り方と木村氏の政治姿勢を厳しく批判、二十三万票近くを得票。現職八年の実績を強調する木村氏がこれに反論する展開となった。

木村氏は全市町村を駆け巡りながら後援会に、かつての有権者・自民の協力を呼び掛けて、都市部を中心に票を積み重ねた。半面、後援会と自民がけん制し合う場面も見受けられた。

大型連休の八戸市と青森市の両市長選挙は、自民党が推薦した現職が圧勝した。

―新幹線青森延伸の早期実現をどう目指すか。

「八戸から青森までの八十二キロは、〇五年度あたりまでにはめどをつけ早期実現を図る目指すか。

―新幹線青森延伸の早期実現をどう目指すか。

「八戸から青森までの八十二キロは、〇五年度あたりまでにはめどをつけ早期実現を図る目指すか。

―県民に何が受け入れられたと思うか。

「県民は、『保守対決』と訴え続けた。『保守対決』の根源を徹底したものの、終盤は、サイクル事業の既成事実化と七十四歳の高齢もあり、支持を伸ばせなかった。

『有権者は独自の厳しい審判』とだが広がりはなかった。

―県政への強い批判を浮き彫りにした。木村氏は三期目の県政運営に当たり、県民から厳しい注文を突きつけられた形となった。

「低調だった有権者の関心は終盤にかけて幾分上向いたものの、最終的な投票率は過去最低だった前回を2・29ポイント上回ったにとどまった。

二十一世紀最初の知事選は、先行する木村氏を横山、平野両氏が追う事実上の三どもえ戦となった。新人はいずれも現県政の在り方と木村氏の政治姿勢を厳しく批判、二十三万票近くを得票。現職八年の実績を強調する木村氏がこれに反論する展開となった。

木村氏は全市町村を駆け巡りながら後援会に、かつての有権者・自民の協力を呼び掛けて、都市部を中心に票を積み重ねた。半面、後援会と自民がけん制し合う場面も見受けられた。

大型連休の八戸市と青森市の両市長選挙は、自民党が推薦した現職が圧勝した